

水稲育苗用被覆資材の効果確認試験

JAきたそらち

林 伸昌



4月23日



4月23日



4月23日

試験目的

太陽シートの広幅効果確認

試験作物 及び品種

水稲

試験資材 及び数量(規格)

太陽シート(3,600mmx100m) 2枚

慣行資材

シルバーポリトウ、太陽シート

栽培方法

定植日

慣行区: 4月20日

試験区: 4月20日

資材使用期間

4月22日~4月28日

試験区面積

720㎡



4月23日



4月23日



4月23日



4月23日

試験結果

(1) 作業性について(慣行品との比較)

シルバーポリトウとは巻物で納品されるが、試験品はたたんで納品してくるため、少し展張作業がしづらかった。

また、シートの端がまるまりやすいので注意して展張した。

(2) 作物の生育状況または、収穫への影響

ハウス内の温度がかなり上がっても苗焼けが起こらなかった。

逆にハウス内の温度が上がらないと苗に必要な温度が確保できないので、天気の良い年は注意したい。

(3) 栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 苗焼けがしづらいところ。

【問題点】: 長さ方向にカット加工ができないところ。

(4) 資材の強度・耐久性・崩壊性について

少しペラペラしている印象。

(5) 促成・抑制効果について

(2) 同様

(6) 保温効果について

(2) 同様

モニター感想

ハウス内温度が40℃になっても太陽シートの中は25℃前後に保たれており、苗焼けの心配がなかった。

しかし、気温の低い日は一度シートを剥がす必要があったため、春先の天候に左右されるかもしれない。

温暖化が進む昨今では必要になってくる資材と感じている。

JA担当者の感想(雨竜資材課 田中 氏)

今回は春先から気温が高い状態で推移した環境で使っているため問題は無かったが、春先からの天候不良で地温が上がりきる前に伏せた場合には効果が落ちると想定される。

しかし、太陽シートを使うことでハウスの開閉を気にしなくても焼ける心配がなくなることから、他作業に専念出来ることは大きいと感じる。

今後の使用について

継続して使用したい。

将来希望する資材について

電動巻き上げで風センサー、雨センサー、片方開きなどが付いた商品。

その他

昨年に引き続き使用した。昨年は片側をシルバー、もう片側を太陽シートとした。

1 栽培システム

2 施設システム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 防風資材

9 ICT機器

10 その他